

星座の圖



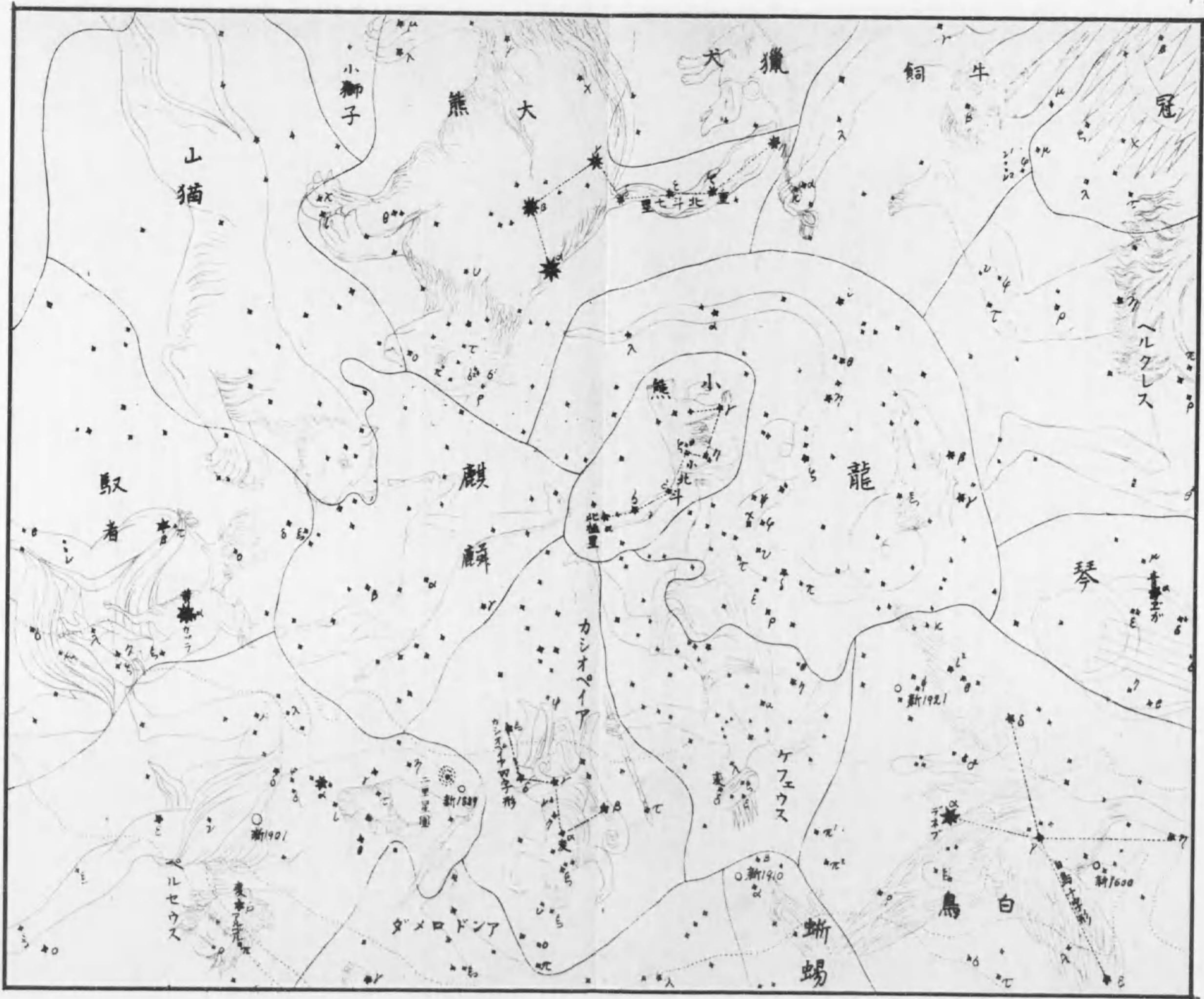
古川龍城編  
新光社

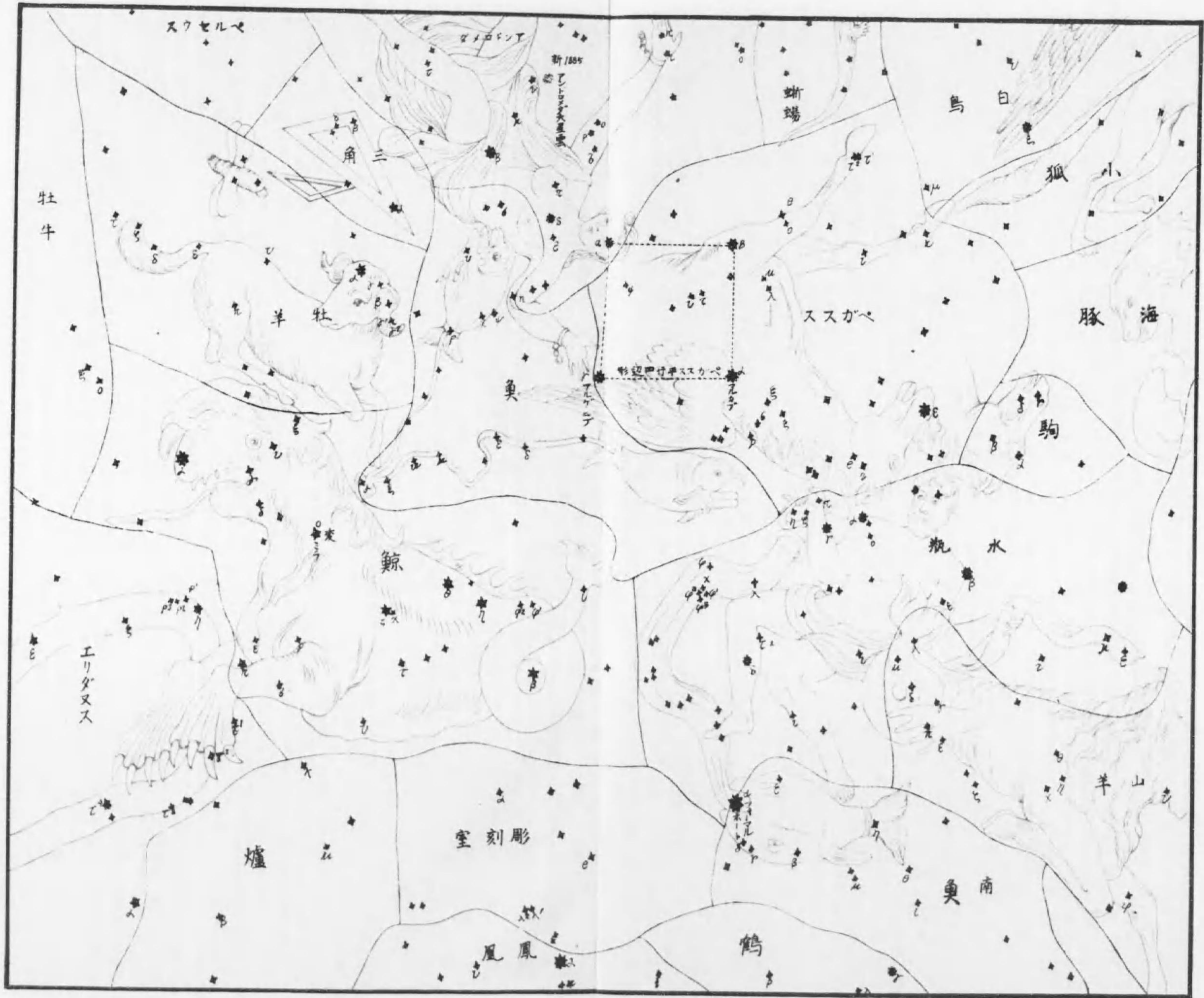
716  
716

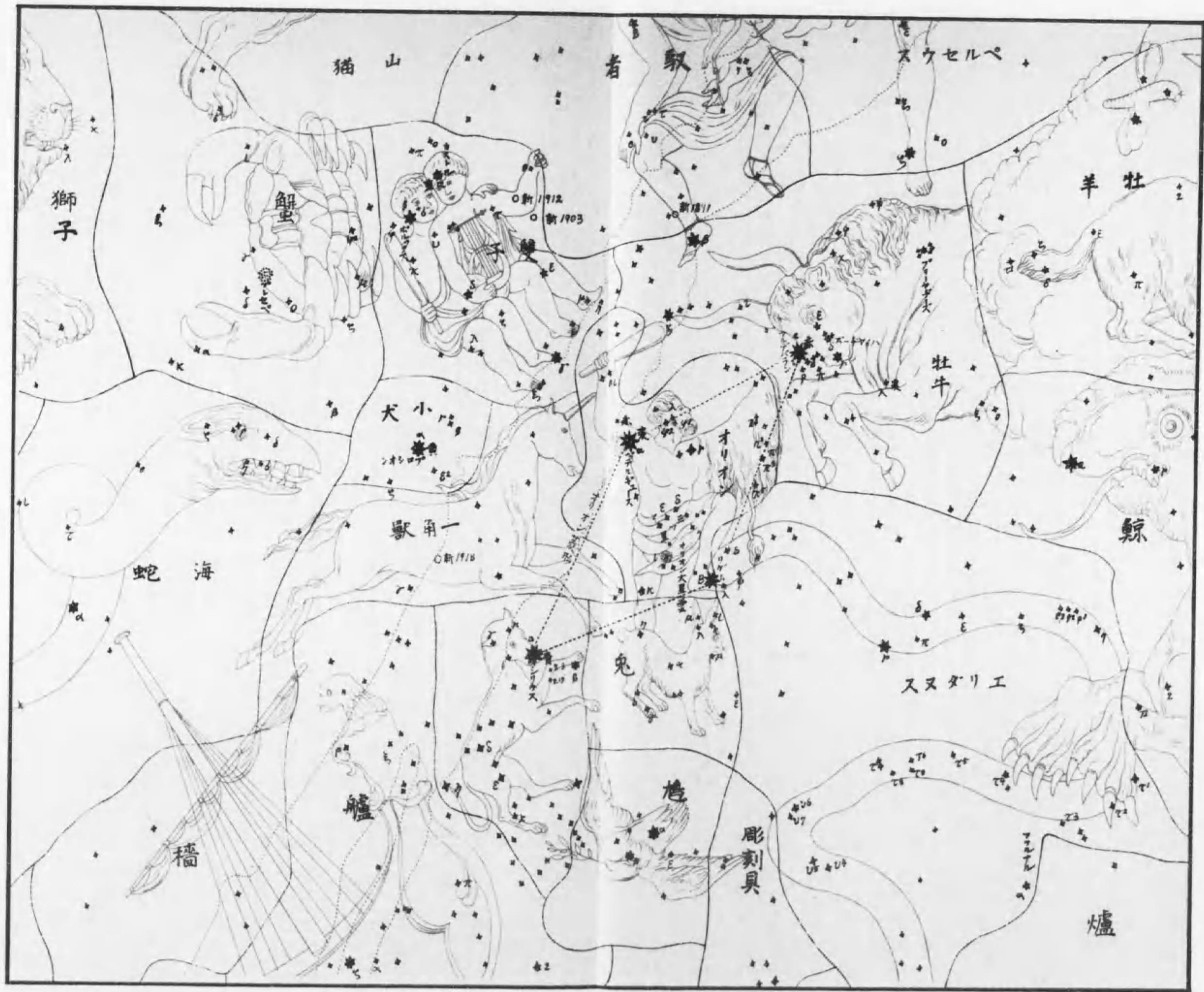
6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6

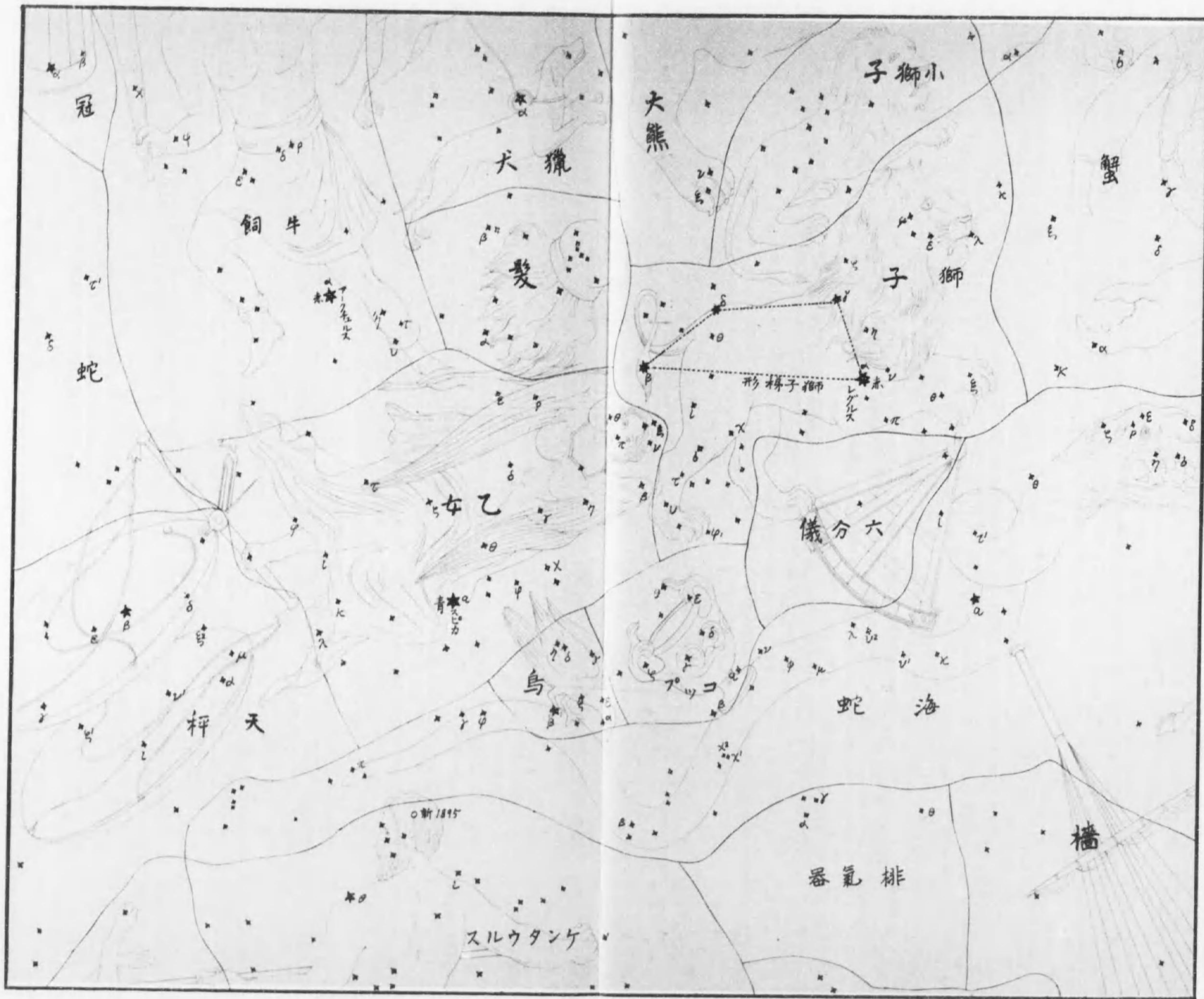
始

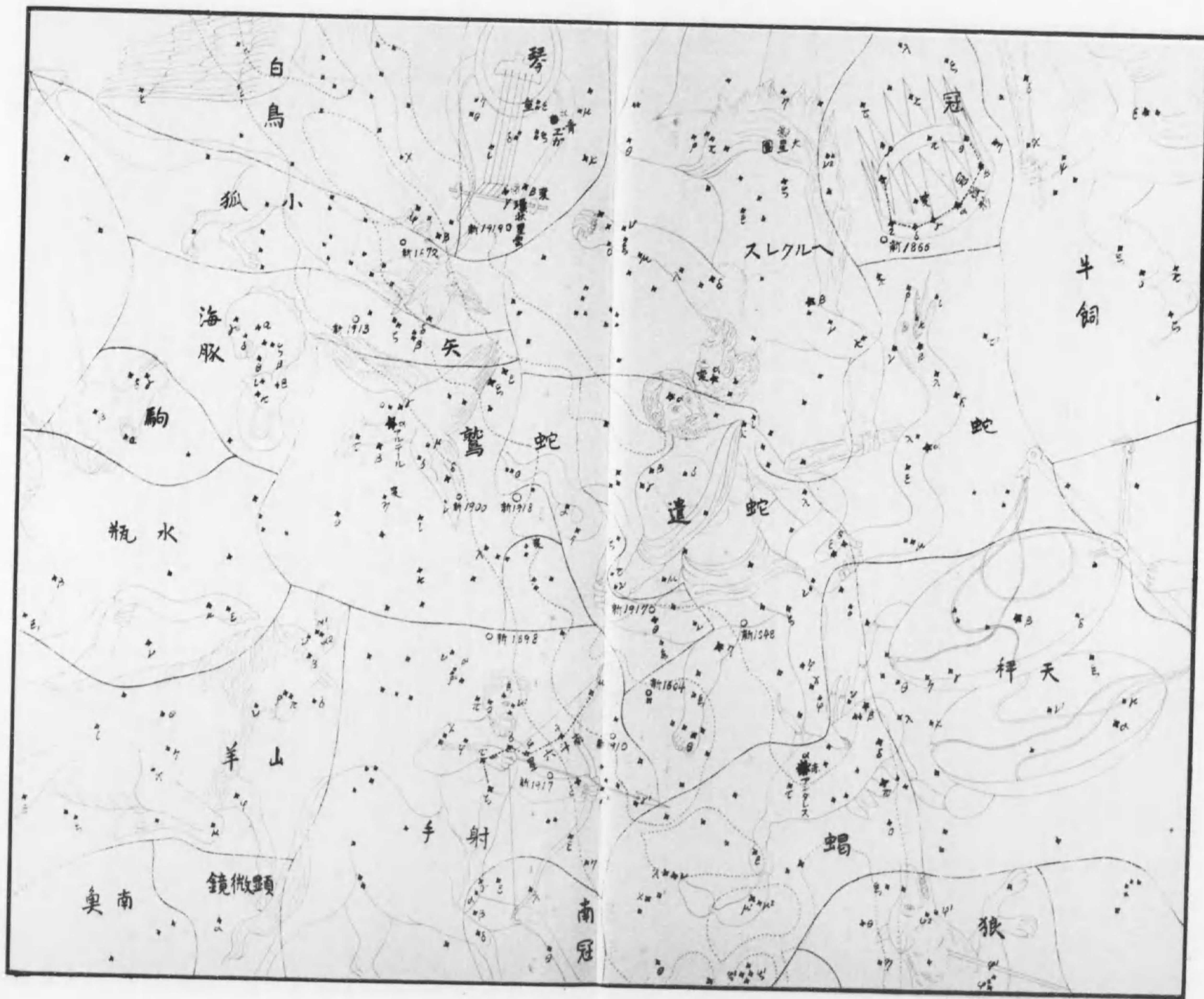


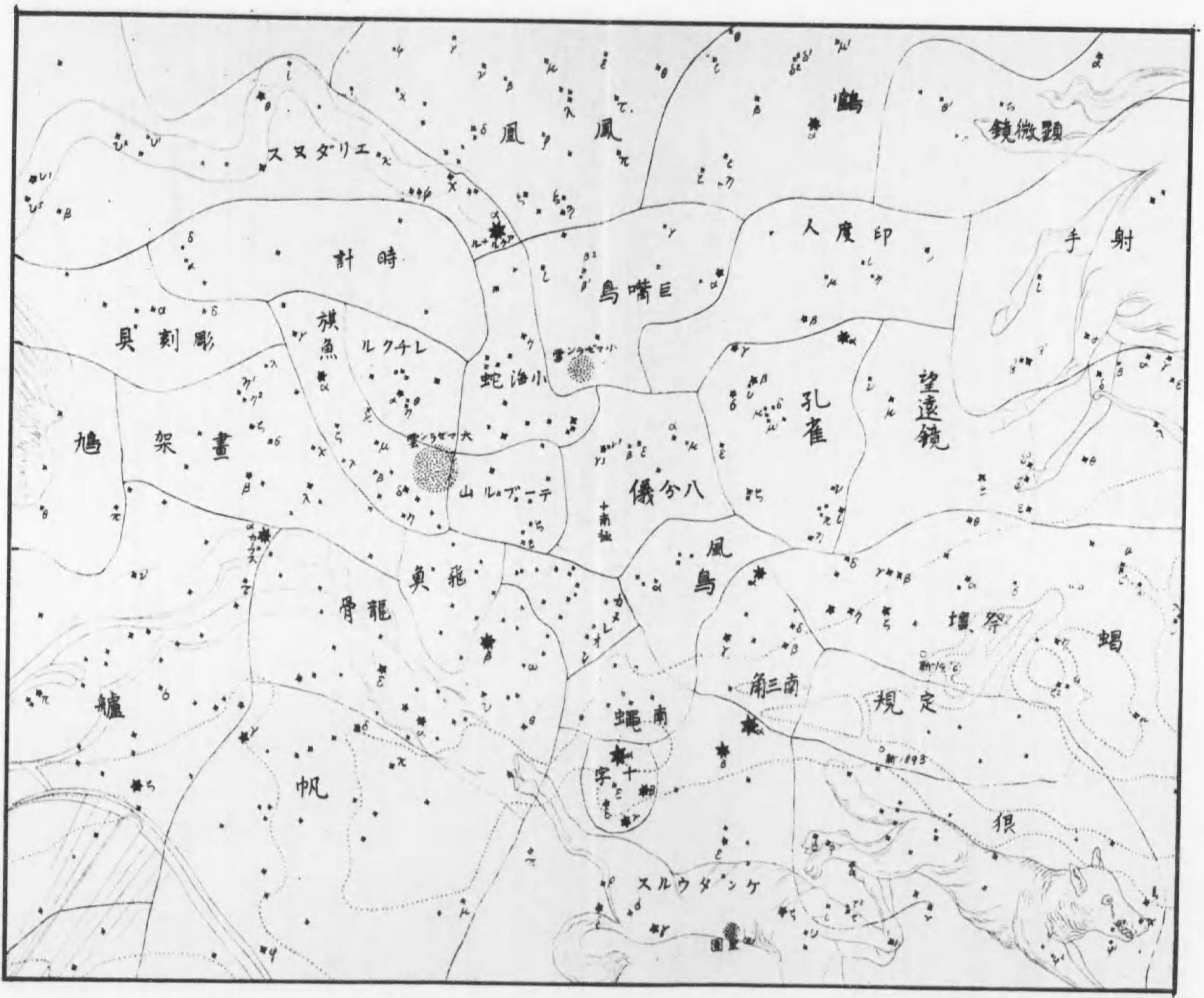












# 星座の説明

古川龍城

## 一、星座

晴夜屋外に出て天空を仰ぎ見ると無数の星辰の幕布散在するを認めるが、其の中若干の物を集めて一群となし之れを星座と呼ぶに至つた。竝も大陸を各洲又は各國に區別すると同じ趣きで、各星座には境界線を設け、そして全天を蔽ふ様にしてある。星座の起りは西暦紀元前幾百年の昔で、初めは神話中の神や人、又は動物などの名稱を襲用したが、後世の天文学者は尙器物等の名をも用ひて、未だ古人の命名しなかつた部分を填充するに至つた。星座の地際線は距離厳密なものではないからして、星圖に依つて多少の差違があるから、見る者は餘り之れに拘泥しない様にするがよい。今次に各星座のラテン語の名稱と和名とを記すが各國は大抵このラテン語を用ひ、和名は其れを翻譯したもので、その漢字の讀方は多く訓讀してあるのに注意されたい。

- Andromeda      アンδροメダ
- Antia Pneumonia      肺炎
- Apris      風鳥

Aquarius	水瓶座
Aquila	鷹
Argo Navis	アルゴノエリス
Carina	船
Malus	櫓
Puppis	船尾
Pyxis Nautis	羅針盤
Vela	帆
Aries	牡羊
Auriga	牡牛
Bootes	半人半馬
Ca-fium (Scaportium)	彫刻
Carrelogachius	熊
Cancer	蟹
Canes Variet	犬
Canis Major	大犬
Canis Minor	小犬
Capricornus	山羊
Cassiopeia	カシオペア
Centaurus	ケンタウルス

大正  
18. 11. 10  
内宣



Cepheus	ケンペウス	ケン
Cetus	鯨	ヘルクレス
Claraecon	カメレオン	時
Circinus	両脚規	海
Columba Nava	鳩	小
Corra Berenices	髮	海
Corora Australis	南冠	小
Corora Borealis	北冠	印度
Corvus	鳥	蠍
Cassiopeia	コッペ	小
Cruce	十字	獅子
Cygnus	白鳥	小
Delphinus	海豚	鬼
Doora	龍	表
Draco	龍	浪
Eridanus	架	山
Erythraeus	架	琴
Forray Chemica	架	扇
Gemini	雙子	微
		角
		限
		テール山
		南
		北
		定
		規

Ocelans	八分儀	南
Ophiuchus	蛇蝎	三
Orion	オリオン	角
Uro	孔雀	鳥
Ugnus	ベガヌス	大
Ursus	ヘルセウス	小
Phoenix	鳳	小
Pisces	魚	乙
Pisces Australis	南魚	女
Pisces Volans	南飛魚	小
Reticulum Rhomboidalis	レチクル	小
Sagitta	矢	狐
Sagittarius	射手	
Scorpio	蝎	
Apparatus Scurptoris (Scurptor)	彫刻盤	
Scutum Sobiescianum	盾	
Serpens	蛇	
Sextans	六分儀	
Telescopium	望遠鏡	
Triangulum	三角	
Triangulum Australe	南三角	
Torva (Torani)	巨鳥	
Ursa Major	大熊	
Ursa Minor	小熊	
Virgo	乙女	
Vulpecula Cum Ansere	小狐	

(○印は使用せず)

先づ以上の如くであるが、アルゴ座は大きいので龍骨、楯、靴、羅針盤、帆の五分に分かれて居るが、現今羅針盤座は楯座の中に埋設された形になつて使用されない。又北極座は牡羊座のあたりに隠れてあまり使はれない。

### 一、星座についての神話 ヘルセウス

是等の星座中、主なるもの、神話を概略語つて置く。ギリシャ神話に依ると、昔英雄ヘルセウス、止むなき事情のため、西の國の女怪メデューサを征伐に行き、難なく歸る途中、とある海岸に美しい一人の少女が岩に繫がれ、海から恐ろしい鯨が来て、一呑みにしようとして居るのを見て、早速手に携へたメデューサの首を鯨にさしつけたら、鯨は忽ち石になつて終つた。總じてこの怪

物の首を見る者は石となるのである。少女の父はケフ・ウス、母はカシオペイアと言ひ、母は海岸で餘り自分の美貌を誇つたので、遂に海に棲む女神の怒りに觸れ、少女を犠牲に供しなければ到底治まりが附かなくなつたのである。メヂューサの首から流れた血は化して鷲ある馬ベガスとなつた。アンドロメダ、ベルセウス、ベガス、鯨、カシオペイア、ケフウ・スの五者は星座として天にある。

### アルゴ

イオルカニ國王の子ジ・トソンはコルキス島へ渡り金羊の毛皮を取つて来なければ王位に上れないこととなつた。その金羊は恐ろしい火龍が守つて居て中々取りにくいもので、ジ・トソンは數多の勇士と共にアルゴ船に乗じて出帆した。従ふ面々にはカストル、ポルックス兄弟、ヘルクレス、オルフ・ウス、其他の人々で、やがて上陸し、幸うじてその毛皮を奪つて歸國し、王位に即くことを得た。牡羊、アルゴ、ヘルクレスは星座にあり、カストル、ポルックスは二つの恒星で、オルフ・ウスは樂人でその常に持てる琴は星座となつて居る。

### 馭者

馭者はエレキセウスの事で、彼は跛である所から常に四輪車に打ち乗り、四頭の馬を馭して歩るいたといふ。

### ケンタウルス

半人半馬の怪物である。

### 髪

髪はトレミー第三世の皇后が夫が出征に際し必ず勝つやうにと神に祈つたが、果して凱旋したので、その御禮のため、髪を切つて神に獻げた。その髪が星座となつた。

### 冠

冠は酒神バックスが妃アリアドニーに七星を鑲めた冠を贈つた。それで星座は七星が弧形になつて居る。

### 白鳥

日神アポロの子フ・トンは父の火輪車を借り、そこから乗る廻はしたので、各地到る處火災を生じ、大神ジ・トピターのために電撃されて雲にエリダヌス河に墜落して死んだ。友人キグヌス大に悲み白鳥と化して、始終エリダヌス河を遊いで友の跡を探したとのことである。白鳥、エリダヌスは星座にある。

### ヘルクレス

英雄ヘルクレスは有名な十二の功業をなした。その中、ネミアの猛き獅子を殺し、アルゴスの古井戸に住む海蛇を捕き、クリートの強猛な牡牛を逐ひなどした。ヘルクレス、獅子、海蛇、牡牛の四者は星座にある。

### 蛇 遺

蛇遺はエストラピウスとて醫術をよくした神であつて、現今でも醫道の祖神として崇められて居る。

### オリオン

オリオンは狩獵の名人で、或る日森で七人の美しい女神たちを見付け、其の後を逐うたところ、月神ダイアナのこれは使ひ女等で、月神は七人を七羽の鳩と化して空中に翔けしめてオリオンの追跡を免がれしめ、更に化して七つの星とした。牡牛座に輝やく星團ブリーヤデースがそれで、それは肉眼で七つの星が見えて居る。

### 射 手

射手は半人半馬の怪物キロンを現はして居る。

### 乙 女

乙女は女神アストレアで、神々が段々汚れて来る人間界を見捨て、一人々々昇天した後まで踏み違つて居たが、これも遂に天に去つた。

### 熊

女神カリストは大神ジ・ピターに愛されたところ、その妃ジノの嫉妬を受け、遂に黒熊に化せられた。その子も亦熊となつて共に天の星座に列し、大熊、小熊と呼ばれて居る。

神話は以上で切り上げよう。

### 三、星の名稱

#### 特別名稱

恒星の中で、名高いものには一々特別の名稱がついて居る。例へば次のやうで括弧内はその屬する星座である。

- |            |              |
|------------|--------------|
| シリウス(大犬)   | カベラ(馭者)      |
| カノプス(龍骨)   | アークチュルス(牛飼)  |
| エガ(琴)      | リゲル(オリオン)    |
| プロシオン(小犬)  | アケルナル(エリダヌス) |
| アルテール(鷲)   | パテルギウス(オリオン) |
| アルデバラシ(牡牛) | カストル(雙子)     |
| ポルックス(雙子)  | スピカ(乙女)      |
| アンタレス(鰐)   | フオーマルホート(南魚) |
| デネブ(白鳥)    | レグルス(獅子)     |
| ポラリス(小熊)   | アルゴル(ベルセウス)  |
| ミラ(鯨)      |              |

この中エガは織女、アルテールは牽牛とも云ひ、七夕物語に出て来るものである。又ポラリスは北極星の事を指す。

#### バイエル式名稱

バイエルは一星座の星に大抵その光りの大きいものからギリシヤ文字のアルファ、ベータを附けた。この文字は一寸覚えにくいだが、星の名を知らうとする人には是非必要であるから、次に記るしたが、読み方は幾通りもあるから、おながちこの振假名通りでなくともよい。

アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ、エプシロン、ゼータ、エータ、イータ、カプタ、ラムダ、ミュー、ニュートン、クワ、オメガ、  
 α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

それで例へば、ベテルギウスはオリオン座のα星、リゲルはオリオン座のβ星と呼ぶのであるが、唯略してオリオンα、オリオンβなどとした方が簡便である。

以上の中、αとβとは間違ひ易い文字であるから氣をつけねばならぬ。αはαに酷似し、εとω、又はδとθともよく似たところがあり、φ(φ)とψ(ψ)とも見紛はしい。尚ごとごととも一寸類した點がある。是等は初めから氣をつけて覚えるがよい。

その他、星に123星の番號をつける方法もあるが、この星圖には特別名稱とバイエル式名稱とだけを記した。名の無い星は番號などのあるものと承知して貰ひたい。

### 等級

星の等級とは、その實際の光輝の大小に關せず、唯打ち見たところ極く明るいのを一等星と名け、二等星から三、四、五、六等星までは肉眼に映するもので、七等以下は望遠鏡の力を借らなければ見られないものである。

### 四、特殊の天體

#### 恒星の色彩

恒星の大きいものになると、中には色彩を有して居るのがある。普通は白色であるが、或る物は青、或る物は黄又は赤の色を呈して居るので、本圖には該恒星の側に「赤」とか「青」又は「黄」の文字を附記して置いた。大きいものの中各色彩の二三の例を次に記す。

赤 アルデバラン、ベテルギウス  
 青 エガ、シリウス  
 黄 カペラ、プロシオン

#### 重星

普通の星は單獨に見えるが、望遠鏡を用ゐると、二つ又は三つ以上の星の集まつて居るのがある。之れを重星と稱し、本圖では「重」の字を附記して置いた。肉眼で辛うじて見える重星は次の二つである。

大熊 71

### 変光星

通常星は一定の光度を保つが、中には時々その光度を變化するものがあつて、之れを變光星と呼んで居る。變光星の光度の變化は肉眼で觀測できるものが深山ある。本圖では「變」の字を附記して置いた。最も有名な變光星は次の如くである。

アルゴル(ペルセウス)

ミラ(鯨)

蟹 7

琴 8

### 新星

唯一時だけ天空にばつと輝き出で、數個月の後又消失する天體を新星と呼ぶが、本圖には成るべく多くの新星の位置を記入した。その書き方は、

星 1901

とあればそれは千九百一年に出現したもので、形はすべて輪を以つて示した。

### 星雲

星辰の中には非常に多數のものが密集して、肉眼でもわかるものがあるが、多くは望遠鏡で覗くと、その鏡裡に輝々と輝く有様

は實に綺麗なもので、之れを星團と名ける。星團中有名なものは本圖に記入して置いたが、それは次のやうなものである。

プリーヤチーズ(牡牛)  
 ハイナチーズ(同上)  
 プレゼベ(蟹)  
 ヘルタレス大星團  
 ペルセウス二重星團  
 ケンタウルス星團

尙大の川も亦星辰の密集した帯状のもので、星團の大規模のものとも言ひ得る。

### 星雲

星團と異なり大望遠鏡の力を借りても、個々の星に分解のできない朦朧たる天體を星雲といふ。但し瓦斯状星雲と云ふのは、全體瓦斯から出来て居るが、螺旋状星雲と云ふのは極めて遙かな空間に横はる莫大な数の星の團體であるとも言はれて居る。星雲は辛うじて肉眼に見えるものは次の二つである。

アンドロメダ大星雲(螺旋状)  
 オリオン大星雲(瓦斯状)

星團にもせよ、星雲又は重星にもせよ、辛うじて肉眼で見えるものは望遠鏡を使ふと一層明瞭に見えるものである。

## 五、本圖の見方

### 第一圖

本圖を説明するに當り、或る天空の部分の見える時刻は概べて夕方即ち午後八時、九時頃とする。

第一圖は十一月の宵に現はれる天空の部分であつて、十月ならば、全體がもつと東方(圖では左)に寄つて居るし、又十二月ならば、西方(圖では右)に寄つて居るが大した相違はない。この圖では一等星はフォートマルホートのみで比較的寂寞な區域である。

ベガスの平行四邊形と云ふのは二等星が四つ四角に列んで居るもので、中三つはベガスの、他の一つはアンドロメダに屬して居て、各星の間隔は弧度で大凡十四五度ばかりであらう。そして中二邊は南北に、中二邊は東西に略正確に向いて居る。

この平行四邊形の東北隅の二星アンドロメダから又東北へ、βと通り、直角に右に折れて、γ、δと進めば、そのγ星のあたりに名にし負ふアンドロメダ座大銀旋状星雲が朦朧と光つて居るのが、肉眼ですら見えるから、一度是非見て置くべきである。鯨座のミラ又は鯨のは名高い變光星である。

### 第二圖

第二圖は二月頃の宵に見える。三つ星を中央にしてオリオン、

菱形を呈する四明星は、シリウス、ベテルギウス、アルデバラン、リゲルといふ屈強の星である。この菱形の北にブリーヤチーズ、ハイヤチーズの兩星團があるが、前者は大きい面積を有し、肉眼でどんな眼の悪い人でも見える一握りのぼんやりした光りである。三つ星の下(南)に小さい三つ星があり、その中央の星を取り囲むものはこれこそ名も高いオリオン座大瓦斯狀星雲で肉眼にも仄かに見える。これも是非一度見て置くべきものである。菱形の東にはカストル、ポルクスの二星が雙眼の如く光り、又黄色星プロシオンもある。このあたりの天空が最も美しく賑やかな所である。

### 第三圖

第三圖は宵の空であつて、レグルス、スピカ、アークトゥルス、の三つの一等星が大きい直角三角形を形造つて居るのが目立つ。又獅子座にはレグルス、γ、δ、εの四星が梯形をなして居るのも著るしい。

### 第四圖

第四圖は八月の宵の空でゾガ(織女)とアルテール(牽牛)の二星が天の川を隔て、東西相呼應して居るのが直ぐ目に付き、南天には赤色星アンタレスが赤々と光つて居る。西方には冠座の七星のなす弧形がよく見付られ、南方では又射手座の南斗六星が如

何にも北斗七星に似て居る。これは著者の目に著るしいのであるが、蝎座のりとななる二つの三等星が眼玉の如く光つて居るのが何より先に見付かる。

### 第五圖

北極近傍の天は第五圖で示され、北斗七星、小北斗、白鳥十字形、カシオペアW字形など中々星座を覺えるのに都合のよいものが多い。北斗七星の一つなる大熊は二重星で肉眼でも眼の鋭い人には解かる筈である。北極星は北斗七星の頭の二星を連絡した線の延長上、約五倍の所にあるは誰も知つて居る通りである。ペルセウス座の二重星團は肉眼でも解かる。

### 第六圖

南極附近の天は第六圖で示され、割合に星は多いが著々の圖からは見えない。カノプス、ケンタウルスのαとβ、十字のα、αケルナルなどの一等星があり、ケンタウルスαは地球に一番近い恒星である。

旗魚座の大マゼラン雲、巨嘴鳥座の小マゼラン雲は、従来な所に在る獨立の宇宙系統であるとの説もある。ケンタウルス座の星團は肉眼にも見える。

## 星座の圖 説明一終



## 星座の圖

・定價一圓・

大正十二年十一月七日印刷  
大正十三年十一月十日發行

編者 古川龍城  
發行所 東京市神田區下二番町三  
印刷者 猪俣本卓  
印刷所 東京市神田區飯田町二ノ五〇  
東京市神田區飯田町二ノ五〇  
東京市神田區飯田町二ノ五〇

發行所

新光社

東京市神田區下二番町三  
換替東京四三二四〇

307  
397

## 新 光 社 出 版 學 科 書 類

理學士 原 田 三 著	海の科學 定價三圓三十錢 送料十五錢	同	山の科學 定價三圓三十錢 送料十五錢	同	星の科學 定價三圓三十錢 送料十五錢	同	地震の科學 定價三圓八十錢 送料十二錢	理學士 石 井 重 著	世界の終り 定價三圓七十錢 送料十七錢	古 川 龍 著	星のローマンス 定價二圓 送料十五錢	同	月の科學 定價二圓 送料十五錢	大沼十太郎著	宇宙の旅 定價二圓六十錢 送料十七錢	能 澤 著	生物ローマンス 定價二圓三十錢 送料十七錢	村 林 仁 著	遺傳の科學 定價三圓三十錢 送料十七錢	理學博士 渡邊十千 著	風景の科學 定價二圓八十錢 送料十七錢
文學士 小 熊 虎 之 助 著	心靈現象の科學 定價三圓五十錢 送料十九錢	石 井 男 著	西洋草花の知識 定價二圓五十錢 送料十七錢	コ ー リ ン 著 大沼十太郎譯	無線ミアマチュア 定價二圓 送料十五錢	工學士 林 尾 太 郎 著	原子の秘密 定價一圓 送料十一錢	上 原 敬 二 著	國立公園の話 定價十一錢 送料十一錢	古 川 龍 著	火星の生物 定價十一錢 送料十一錢	宮 里 良 保 著	自動車ハンドブック 定價二圓五十錢 送料十三錢	大沼十太郎著	近代科學の驚異 近 刊	理學博士 渡邊十千 著	趣味の鑛山物語 同	フ ン 著 佐 吉 譯	原子の常識 同	工學士 萩 原 長 谷 雄 著	最近の船舶 同

終

